

仏 IRSN のダランドル国際協力課長が来所

フランスの放射線防護・原子力安全研究所（IRSN）のダランドル・ロベール国際協力課長が2012年10月23日、駐日フランス大使館のグゼリ・クリストフ原子力参事官とともに当研究所を訪れ、茂里理事長と懇談するとともに、当研究所から海底土放射能計測の取り組みや核燃料物質の海上輸送に関する研究内容などについて説明を行いました。

ダランドル氏はIRSNの国際本部で日本、韓国、アフリカを担当する国際協力課長で、2012年10月下旬に開催され

たわが国の原子力機関とのワークショップ参加のために来日されました。今回、その機会を利用して初めて当研究所を訪問することになったものです。

核燃料物質の海上輸送に関する当研究所の研究やその成果については、海洋リスク評価系の小田野直光系長と海底土放射能計測の実船計測、放射能濃度分析を担当した大西世紀主任研究員（システム安全技術研究グループ）が説明を行いました。



理事室で（右から2人目がダランドル氏、3人目がグゼリ氏）



研究内容の説明（本館応接室で）

三鷹・第3中の生徒7名が2日間の職場体験学習



座学「船の流れ」

三鷹市立第3中学校の生徒7名が2012年10月24、25日の2日間にわたり、当研究所で職場体験学習を行いました。

当研究所が今年度、職場体験学習の生徒たちを受け入れるのは、6月の三鷹市立第2中中学生（10名）、7月の同第6中中学生（5名）に続いて三度目となりました。

生徒7名は女子3名と男子4人という組み合わせ（ただし、初日は女生徒1名が体調不良で不参加）。学習プログラムは前回と同様、1日2コマ（午前・午後）、2日間で計4コマの学習および実習で構成。プログラムは初日が「船と海のガイダンス」（企画部広報）と「シミュレーションで解き明かす船の流れ」（流体設計系、坂本信昌研究員）、2日目が「海と風が創り出すエネルギーの新時代」（洋上再生エネルギー開発系、

塩刈恵研究員）と「船を操って目的地に向かおう—船の現在位置の求め方と海の交通ルール」（運航・物流系、足田賢次郎主任研究員、西崎ちひろ研究員）でした。

生徒たちは船舶・海洋にかかわる工学知識を学ぶだけでなく、実際に変動風水洞や400m水槽の研究施設を見学する機会を持つとともに、操船リスクシミュレータでは、学習に沿って操船体験を行いました。子供たちからは研究者を講師とする学習では「それぞれの先生がわかりやすく楽しく説明してくれたので、とても楽しかった」「珍しい施設が見ることができてよかった」という感想が聞かれました。



400 m水槽で